

三、幼稚園の懷舊を辿りて

望月 くに子

望月女史については、今更申上げるまでもありません。女史は我が國幼稚園の發達を語る第一の方でいらつしやいますので、特に御執筆を御願いたしました次第です。(編者)

拜啓我國の幼稚園史といつた様なものゝ内容を申上ぐる様にとの御手紙を戴きましたので、今四十一
二年前の昔を思ひ出し、心に残つて居る事を認めます。それは人から聽いた事でなく、自分で経験した事
ばかりを何の飾りも加へないで卒直に認めました方が却て宜しからうと考へましたので、餘り御役に立
たないかもしれませんが御覽に入れます、しかし忘れたことや、思ひ違ひがあるかも知れませんから、
御容赦を願ひ上げます。

一、東京女子師範學校時代に私共の受けた保育法の學習

明治十八年の秋頃から十九年の夏前だと記憶いたします。教育や教授法の一部として保育法を學ぶこ
とになりました。折から學校には大改革がありまして、中川謙次郎先生と舎監の先生の外は皆御退職に

なり高嶺先生が洋行歸りの新進の勢を以て教頭におなりになり、實に嚴肅なる訓練法を採用されましたが、保育法は講義を承るに及ばずして直ちに保姆の方から實際の方法を學ぶことになりました。私共は保育といふはどんなことかと好奇の眼をみ張つて其時間を待ちました。保育といふは遊戯をすることでした、まことにやさしくて面白いと思ひました、其遊戯の主なるものは、

民草 たみくさのさかゆる時と苗代に水せき入れてみしめなはゆたに引はへやつかほのたりほのいねのとしあらむ心たのみを今おろすなり。(此歌八段あるも遊戯は一段と二段と八段とのみなりし)

一羽の鳥 いちはこのとりは友まちつけて遊びに行きぬ友よ友よ友よいづこわれをもさそへ。

水車風車 かせぐるまかせのまにくめぐるなりやますめぐるもやますめぐるも。

水車水のまにくめぐるなり。(以下同上)

家鳩 いへばとの巢の戸ひらきて放ちやるゆくゑやいづこ山に野に芝生のはらに遊ぶらむ遊びてあらばかへらなむとくかへらなむかへらさば巢の戸閉ちてん巢の戸とちてん。

(此遊戯は子供が喜びてしましたから比較的長く續いたと思ひます)

其他めしひの君といふ盲遊びや、猫鼠などのおにごともあつたとおもひます。

遊戯の外に理論としては何も教へて頂きませんでした、ベスタロツチとフレールベルの傳を聞いたやうに思ひます。

明治十九年の秋の頃私は教生として附屬幼稚園に參りました、其時の一番エライ先生は中村五六先生でした、毎日の仕事は、

御集 談話(庶物話を含む) 遊戯、恩物と手技を約三十分間づつすることでした。

談話

おはなしは多くイソップなどをしたと思ひます、庶物話の時間には比較的骨を折つて實物を見せて居りました、或日私が水仙の花を持つて中村先生に此水仙の球根は何になりますかと御尋ねいたしました處先生は「あなたのお國では夫をたべませんか御馳走にするじやありませんか」とおほせになりましたので、私は直に庶物話をしましてこの根は御馳走にこしらへておいしいですといひました時に、臨席の訓導(保姆?)先生が變なお顔をなさいましたが後に批評の時にあなたの國では水仙の根を喰べますかとのお尋ねに私は中村先生に伺ひましたと申上りました、中村先生はお隣においでになりましたは百合のことですとて大笑ひをされたことを覺へて居ります、とにかく花などは一々分解して見せたと思ひます。

唱歌

大概遊戯用のものゝ外黄表紙の幼稚園唱歌の中でカラス〜カン三郎親に孝行忘るなよ(下略)椿やつばき椿の花が開いた中のしんまで開いた椿の花はしほむこともあらうが開けたみ代は八千とせのはるまでもしほむことあらじ。などは言文一致に近く進歩したる考への下につくられたものでせうと存じま

す。

遊 戲

遊戯室ですることもあり又藤の柵の下でも或は男子師範（地震以前の本校）と女子師範との間の高い板塀がとりさられ聖堂の方まで行ける様になりましたのであの表の廣庭で前記の遊戯をしてゐまして訓導に調子が外れてゐると叱られたこともあります。

手技（恩物を含む）

恩物の中ではフレーベルの積木第三第四を主として用ひました、子供の自由に積ませてゐました。板排へ箸排もありました。

手技では連鎖がありました、恐れ多いことですが、

大正天皇が幼くおはしました時行啓がありました。私は黒い塗つた箱に小正方形のいろ／＼の紙と麥わらの一寸斗りに切つたのをゴチャ／＼に入れてもち廊下へ出ました時に、殿下はお珍らしくや思召遊ばしたで御座いませう「これ献上」とおほせ遊ばし御手に一杯お握り遊ばしましたことを覚えて居ります。

織紙もいたしました。摺紙もいたしました。摺紙では美麗式と營生式とをいたしましたと思ひます、組織も時折りいたしましたと思ひます、南京玉は糸のさきにのりをつけて、通しよくしてありましたので成程と感心したのでした。

明治二十年四月一日に卒業して仙臺に赴任致しまして同地の小學校に附設されてゐる幼稚園を監督しました、其頃には色紙も色むぎわらもなく東北線は汽車も全通してゐませんでしたので、東京より取りよせられず、私共は色を染めることを苦心して成効いたしましたのが其年の十二月には神戸では私立頌榮幼稚園、私立神戸幼稚園、私立兵庫幼稚園が新設されました。大阪には已に明治十七年頃と思ひますが膳氏の姉君の氏原鏡氏（目下東京本郷西片町十番地ろの三號に住居せらる）が東京にて傳習を受けて歸り盛んに傳習をなさいました、關西に今日幼稚園の發展せるは全く頌榮幼稚園のイー、エル、ハウ氏と氏原氏の賜だと思ひます。（つゞく）